

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療学部 リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	9 人 (4 人)	4 人 (2 人)	4 人 (2 人)	4 人 (3 人)	21 人 (11 人)	14 人	16 人 (8 人)	1 人	51 人	12.6 人 (15 人)	学科で申請。 括弧内は専攻の該当数値
計	9 人 (4 人)	4 人 (2 人)	4 人 (2 人)	4 人 (3 人)	21 人 (11 人)	14 人	16 人 (8 人)	1 人	51 人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2

	上記以外である。	1
--	----------	---

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の 理解	人間と道徳	15	野澤 和弘	兼任
		哲学入門(隔年開講)	15	川口 由起子	兼任
		倫理学入門(隔年開講)	-	-	-
		心理学	15	足立 英彦	兼任
		教育学入門	15	小野 まどか	兼任
		文学の世界	15	酒井 志麻	兼任
		音楽の世界	15	中津川 侑紗	兼任
		歴史学	15	永島 育	兼任
		行動科学入門	15	足立 英彦 金子 功一 北田 沙也加 中澤 潤	兼任 兼任 兼任 兼任
		法学入門(隔年開講)	15	金津 謙	兼任
		日本国憲法	15	金津 謙	兼任
		経済学入門	15	李 雨テイ	兼任
		社会学入門	15	石川 千穂	兼任
		基礎物理学(隔年開講)	-	-	-
		基礎化学(隔年開講)(未開講)	15	岡野 茂	兼任
		バイオリテラシー入門(未開講)	15	早川 雅晴	兼任

		統計学入門	15	松本 暢平	兼任
		データサイエンス入門	15	松本 暢平	兼任
		人間関係論	15	足立 英彦	兼任
		国際関係論(隔年開講)	-	-	-
		コミュニケーション論	15	足立 英彦	兼任
		環境科学	15	泉 賢太郎	兼任
		自信を高める心理学	15	足立 英彦	兼任
		障害インクルージョン論	15	野澤 和弘	兼任
		パラスポーツ指導概論	15	馬場 宏輝 遠藤 隆志	兼任 兼任
		スポーツ・レクリエーションⅠ(実技)	18	中島 悠介	兼任
		スポーツ・レクリエーションⅡ(理論)	15	中島 悠介	兼任
		スポーツ健康科学基礎理論	8	遠藤 隆志	兼任
		体育実技 A	15	中島 亮一 下稲葉 耕己 遠藤 隆志	兼任 兼任 兼任
		体育実技 B	15	下稲葉 耕己 遠藤 隆志 中島 亮一	兼任 兼任 兼任
		体育実技 C	15	遠藤 隆志 鈴木 瑛貴	兼任 兼任
		体育実技 D(隔年開講)	-	-	-
		英語Ⅰ	15	荒金 房子 長谷川 修治 岩見 理華	専任 兼任 兼任
		英語Ⅱ	15	荒金 房子 長谷川 修治 岩見 理華	専任 兼任 兼任
		英会話	15	マーク レモン	兼任
		実践英語	15	岩見 理華	兼任
		中国語入門	15	楊 心苗	兼任
		フランス語入門	15	小川 亮彦	兼任
		ドイツ語入門	15	パールケ ルードウィッヒ	兼任
		情報機器演習	15	川口 由紀子	兼任
		文章表現演習	15	野澤 和弘	兼任
		読書技術演習	15	横田 経一郎	兼任
		自然科学基礎演習	15	山本 雅哉 角 正美	専任 専任
		海外福祉研修	-	山本 雅哉	専任
		解剖学	15	山本 雅哉	専任

専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学実習	15	山本 雅哉 大平 雅弘	専任 専任
		生理学	30	桑名 俊一	専任
		生理学実習	15	桑名 俊一 窪谷 珠江 芹澤 一馬	専任 専任 専任
		人体機能構造学演習	15	角 友起	兼任
		運動学Ⅰ	15	池田 恭敏	専任
		運動学Ⅱ	15	三浦 達浩	専任
		運動学実習	24	三浦 達浩 池田 恭敏	専任 専任
		人間発達学	15	足立 英彦	兼任
		生化学(未開講)	15	村山 俊彦	兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	宮澤 淳滋	兼任
		病理学	15	馬場 健	兼任
		一般臨床医学	8	前田 仁士	専任
		内科学	30	松本 良二	兼任
		整形外科学	30	渡辺 淳也	兼任
		神経内科学	30	前田 仁士	専任
		精神医学	15	荒木 均 澤谷 篤	兼任 兼任
		小児科学	8	前田 仁士 山田 慎一	専任 兼任
		薬理学	8	村山 俊彦	兼任
		救命救急医学	8	大賀 優	兼任
		栄養学	8	平井 千里	兼任
		予防医学	15	中野 愛子	兼任
		病原微生物学	15	森 那美子	兼任
		看護学	8	小西 美ゆき	専任
		画像診断学	8	須田 匡也 園田 優 安江 憲治 郡 倫一 宮川 真	兼任 兼任 兼任 兼任 兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	三浦 達浩	専任
		リハビリテーション医学	8	前田 仁士	専任
		チーム医療演習	15	倉山 太一 大塚 栄子 小西 美ゆき	専任 専任 専任
		社会福祉学	15	上東 麻子	兼任

専門分野		特別支援教育概論	8	國井 光男	兼任
		障害者・高齢者の福祉	8	佐々木かすみ	兼任
		障害者・高齢者の心理	8	佐々木かすみ	兼任
		生命倫理学	8	高石 憲明	兼任
		言語聴覚学概論	15	井関 雅雄	兼任
	基礎理学療法学	エレメンタリーセミナー	15	千葉 諭 福山 英明 大平 雅弘 芹澤 一馬	専任 専任 専任 専任
		インターメディエイトセミナー	15	角 正美 三浦 達浩 千葉 諭	専任 専任 専任
		リハビリテーション研究法	8	角 正美 桑名 俊一	専任 専任
		リハビリテーション英文講読	15	荒金 房子	専任
		ステップアップ演習	15	山本 雅哉 桑名 俊一 三浦 達浩 池田 恭敏	専任 専任 専任 専任
		理学療法学概論	15	水江 年城	専任
		高齢者理学療法学	8	角 正美	専任
	理学療法管理学	リスク管理学	8	長谷川 大悟	兼任
		リハビリテーション管理学	15	大平 雅弘 三浦 達浩	専任 専任
	理学療法評価学	医用画像特論	8	三浦 達浩 倉山 太一 千葉 諭 松岡 瑞雄 伊藤 正明	専任 専任 専任 専任 兼任
		理学療法評価学Ⅰ	15	千葉 諭	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	水江 年城	専任
		理学療法評価学実習Ⅰ	24	千葉 諭	専任
		理学療法評価学実習Ⅱ	12	千葉 諭	専任
		動作分析学	15	菅原 仁	兼任
	理学療法治療学	福祉工学	8	倉山 太一	専任

	リハビリテーションとロボットテクノロジー	15	池田 恭敏	専任
	プロフェッショナルセミナー	30	松岡 瑞雄 千葉 諭 窪谷 珠江 水江 年城 植草 泰憲	専任 専任 専任 専任 専任
	運動療法学	15	窪谷 珠江	専任
	運動療法学実習	24	窪谷 珠江	専任
	運動器系疾患理学療法学	15	三浦 達浩 植草 泰憲	専任 専任
	運動器系疾患理学療法学実習	24	三浦 達浩 植草 泰憲	専任 専任
	成人中枢神経系疾患理学療法学	30	倉山 太一	専任
	成人中枢神経系疾患理学療法学実習	12	倉山 太一	専任
	小児中枢神経系疾患理学療法学	15	水江 年城	専任 専任
	小児中枢神経系疾患理学療法学実習	24	水江 年城	専任 専任
	内部障害系疾患理学療法学	15	水江 年城 松岡 瑞雄	専任 専任
	内部障害系疾患理学療法学実習	24	水江 年城 松岡 瑞雄	専任 専任
	物理療法学	15	植草 泰憲	専任
	物理療法学実習	24	植草 泰憲	専任
	日常生活活動学	15	角 正美	専任
	日常生活活動学実習	24	角 正美	専任
	スポーツ理学療法学	8	千葉 諭	専任
	高次脳機能障害学	8	渡辺 学	兼任
	義肢学	15	松岡 瑞雄	専任
	装具学	15	松岡 瑞雄	専任
地域理学療法学	生活環境学	15	角 正美 千田 直人	専任 専任
	地域理学療法学	15	水江 年城	専任
	地域理学療法学実習セミナー	15	松岡 瑞雄 水江 年城	専任 専任

	臨床実習	アドバンストセミナー	25	倉山 太一 三浦 達浩 千葉 諭 角 正美 松岡 瑞雄 窪谷 珠江 水江 年城 植草 泰憲	専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任
		プロフェッショナルスキル	15	松岡 瑞雄 三浦 達浩 倉山 太一 千葉 諭 角 正美 窪谷 珠江 水江 年城 植草 泰憲	専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任
		基礎理学療法学 見学実習	—	植草 泰憲 三浦 達浩 千葉 諭	専任 専任 専任
		地域理学療法学 実習	—	松岡 瑞雄 倉山 太一 窪谷 珠江	専任 専任 専任
		理学療法評価学 臨床実習	—	倉山 太一 窪谷 珠江	専任 専任
		総合臨床実習Ⅰ	—	水江 年城 松岡 瑞雄	専任 専任
		総合臨床実習Ⅱ	—	水江 年城 松岡 瑞雄	専任 専任
	基礎理学療法学・ 理学療法評価学・ 理学療法治療学・ 地域理学療法学	卒業研究	—	桑名 俊一 前田 仁士 三浦 達浩 水江 年城 倉山 太一 角 正美 松岡 瑞雄 千葉 諭 植草 泰憲 窪谷 珠江 荒金 房子 山本 雅哉	専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任 専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4

	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
基礎理学療法学見学実習 (理学療法の臨床の見学)	2 年前期	リハビリテーション概論	1 年前期
		理学療法学概論	1 年前期
		エレメンタリーセミナー	1 年前期
		運動療法学	1 年後期
		理学療法評価学Ⅰ	1 年後期
		運動療法学実習	2 年前期
		理学療法評価学実習Ⅰ	2 年前期
		物理療法学	2 年前期
地域理学療法学実習 (通所リハビリテーション、又は	3 年前期	インターメディエイトセミナー	2 年前期
		リハビリテーション概論	1 年前期
		理学療法学概論	1 年前期

訪問リハビリテーションの見学)		運動療法学	1 年後期
		運動療法学実習	2 年前期
		日常生活活動学	2 年後期
		日常生活活動学実習	3 年前期
		リハビリテーション管理学	3 年前期
		高齢者理学療法学	3 年前期
		地域理学療法学	3 年前期
		地域理学療法学実習セミナー	3 年前期
理学療法評価学臨床実習 (理学療法評価の実践)	3 年後期	理学療法評価学Ⅰ	1 年後期
		理学療法評価学実習Ⅰ	2 年前期
		理学療法評価学Ⅱ	2 年後期
		運動器系疾患理学療法学	2 年後期
		日常生活活動学	2 年後期
		日常生活活動学実習	3 年前期
		画像診断学	3 年前期
		リスク管理学	3 年前期
		理学療法評価学実習Ⅱ	3 年前期
		運動器系疾患理学療法学実習	3 年前期
		成人中枢神経系疾患理学療法学	3 年前期
		小児中枢神経系疾患理学療法学	3 年前期
		内部障害系疾患理学療法学	3 年前期
		成人中枢神経系疾患理学療法学実習	3 年後期
		小児中枢神経系疾患理学療法学実習	3 年後期
		内部障害系疾患理学療法学実習	3 年後期
		医用画像特論	3 年後期
		動作分析学	3 年後期
		生活環境学	3 年後期
		チーム医療演習	3 年前期
		アドバンストセミナー	3 年後期
総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ (理学療法（評価・治療）の実践)	4 年前期	理学療法評価学Ⅰ	1 年後期
		運動療法学	1 年後期
		運動療法学実習	2 年前期
		理学療法評価学実習Ⅰ	2 年前期
		物理療法学	2 年前期

		物理療法学実習	2年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年後期
		運動器系疾患理学療法学	2年後期
		日常生活活動学	2年後期
		日常生活活動学実習	3年前期
		画像診断学	3年前期
		リスク管理学	3年前期
		理学療法評価学実習Ⅱ	3年前期
		運動器系疾患理学療法学実習	3年前期
		成人中枢神経系疾患理学療法学	3年前期
		小児中枢神経系疾患理学療法学	3年前期
		内部障害系疾患理学療法学	3年前期
		成人中枢神経系疾患理学療法学実習	3年後期
		小児中枢神経系疾患理学療法学実習	3年後期
		内部障害系疾患理学療法学実習	3年後期
		医用画像特論	3年後期
		動作分析学	3年後期
		生活環境学	3年後期
		装具学	3年後期
		チーム医療演習	3年前期
		プロフェッショナルスキル	4年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3

	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	植草学園大学自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	桑名 俊一
組織の開催頻度	年 4 回（令和 5 年度実績）
組織の取り組み内容	・ 自己点検評価に関する事項全般
	・ 認証評価に関する事項
	・ 学外者による評価（認証評価を除く。）に関する事項
	・ 学生満足度アンケートの実施
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：https://www.uekusa.ac.jp/introduction/edu_info）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	保健医療学部教務委員会
	委員構成等	学科主任、保健医療学部専任教員、学務課長
	改善の仕組みの実際	<p>1. シラバスの点検</p> <p>毎年、シラバス記載の注意事項を教員に周知し、各自が自己点検したうえで、学科主任にシラバスチェックリストを提出する。学科主任はチェックリストをもとに各シラバスを再確認し、必要に応じて改善指導をする。その上で、教務委員会で点検結果を報告する。</p> <p>2. シラバス内容の改善</p> <p>学生による授業改善のための実態調査（授業アンケート）の結果を各科目責任者が確認し、次年度のシラバス内容の改善に役立てている。なお、アンケート結果の全体については大学FD委員会が集約・分析し大学全体の授業改善につなげている。</p>

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

令和元（2019）年度にリハビリテーション教育評価機構の評価認定審査を受け、評価認定された。次回は令和6（2024）年度の評価認定審査を受審予定である。

令和2（2020）年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、令和3（2021）年3月16日付で、同機構が定める評価基準に「適合している」と認定された。令和3（2021）年7月14日に改善報告書を提出した。

毎年、大学の自己点検評価書を公表している。